九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

ストーリー・マンガの作品を利用した、異文化間理解教育の教材とプログラムの開発

因，京子
九州大学留学生センター准教授

松村，瑞子
九州大学言語文化研究院教授

https://hdl.handle.net/2324/16838

出版情報：日下翠教授中国文学・漫画学著作集成，2008-03
バージョン：
権利関係：

はしがき

本報告書『ストーリー・マンガの作品を利用した、異文化間理解教育の教材とプログラムの開発(基盤研究(C) 17530666)』は、科学研究費の助成を受けてこれまでに行った二つの研究、「女性・少女漫画を素材とする異文化理解教育の方法開発」(平成11年度—13年度)、「マンガを素材とする異文化理解教育の方法開発」(平成14年度—16年度)に続いて、ストーリー・マンガの作品を用いて日本語と日本文化についての理解を進め、異文化と自文化に対する分析的な態度を涵養する方法の開発を目指して行った研究について報告するものである。

最初の研究では、マンガ教材化の方法・日本語の話し言葉・日本マンガ研究の方法論などについて基礎的な研究を行い、具体的な成果として、大学の異文化理解コースや上級日本語コースなどで使用するための教材を作成した。次の研究では、日本語の語用論的側面や日本人の言語行動についての分析を更に進める一方、異文化理解教材2点を作成して、開発者自身が使用すると共に国内外の日本語教育担当者に提供し、教材とその使用法の妥当性を検証した。これらの活動を通して、ストーリー・マンガの登場人物の発話や行動の解釈能力を訓練するという方法が、異文化や外国語を眺める視野を拡大することに役立つこと、また、小説やエッセイなど他の分野への応用も可能であることが明らかになった。しかし一方、開発した教材を開発者以外の教育担当者に提供し有効に利用してもらうためには、教材だけでなくプログラムについてのより具体的な情報提供を行う必要があるという課題も見えてきた。そこで今回の研究では、ストーリー・マンガ及び小説などの文化的作品を素材として日本語の語用論的特徴の記述を行う基礎研究を進める一方、これまでに作成した教材に即して学習項目となっている言語的・文化的特徴を解説した教師用指導書を執筆した。これは、特に非母語話者の教師にとっては有効なリソースとなるものと期待している。本報告書には、この3年間に発表した論文や教材、行った口頭発表や講演等の中から、論文の全て、講演や口頭発表の資料の一部、教材3種を収録した。

最初の研究に着手した9年前と比べると、マンガを用いるという方法に関心を示す人々が驚くほど増え、講演など研究成果について述べる機会もたびたび与えられるようになった。筆者らの関心は、他の教材では提示しにくい日本語の特徴や日本文化の側面を提示することにあり、このためにマンガはまたとない優れた素材であると信ずる。この報告書が、異文化理解教育やマンガの教育利用に関心を持つ人々にマンガによって何ができるかを僅かなりとも示すことができれば幸いである。

2008年3月

研究代表者　因　京子